

学校だより 高遠の子

伊那市立
高遠中学校
2021.6.4
No.5

【紙面・校長講話】

夏の大会に寄せて（１）

～悪い結果にどれだけ耐えられるか～

『挑』・・・部活動発足の時に、生徒の皆さんに送った一字です。日々の練習の中で、常に挑戦し続けてきた皆さん、いよいよ夏の大会が始まります。

去年は、新型コロナのため8月の大会のみ。南信大会も県大会もないという年でした。今年は、県大会への道があります。

今年の大会は、新型コロナにより臨時休校や学級・学年閉鎖があると、在籍する生徒のみならず全員が出場できないという大変厳しい条件があります。安全第一、感染拡大防止のためです。この文章を書いている今でも、なんとか皆さんが無事大会に出場できるように…とそればかりを考えています。

おうちの方にはこれまで感染防止に心をたくさん配っていただきました。地域の方も感染しないようにと日々努めてきてくれています。4月の観桜期活動で他県の方が高遠に来て、私たちは感染防止策により、守っていただきました。これも皆さんの努力、ご家族・地域の方全員の協力の賜物です。

これまでもそしてこれからも気をつけねばならないことは、「これまで大丈夫だったのに、なんで感染したの?」とか「どこの誰?」とか、「ここまで自分たちが努力していたのに。〇〇のせいで自分たちが大会に出られない(活動ができない)」など、今後、感染者や濃厚接触者が

本校関係者に出たときに、誹謗や中傷、または“犯人捜し”という最悪の事態を絶対に生まないことです。

コロナ下であっても、おうちの方や地域の方は仕事などで家の外に出なければなりません。どんなに防いでいても感染するリスクは誰でもあるということです。他県では、ずっと家にいたのに感染したという例も聞いています。それほどに“変異株”の感染力は強いということです。かかってしまった人を責めても、何も得るものではありません。誹謗や中傷がかえって事態を悪くすると私は考えます。

大会参加にあたり、新型コロナ感染などの影響で、万が一自分が(自分たちが)出場できないという状況になったとしても、この事実をどれだけ自分の中で消化できるか。そこが大きなポイントだと考えます。これはおうちの方、地域の方にもお願いしたいことです。

あるテレビを見ていましたら、「東日本大震災で大勢の方が亡くなっているのに、どこか他人事であった。自分の身内が亡くなって初めて人が亡くなるということの何とも言えない悲しさを味わった」という場面がありました。

本当にその立場、自分が当事者となったとき、悔しさや切なさ、悲しみや怒りの感情が自分の心に生じたとき、そのときにどのように自分を処していくか。これこそが、もしかしたら、日々の学校生活や苦しい場面を経験してきた部活動での心の成長を測るものさしになるのかもしれない。大会の結果についても同様です。私自身も自分に問うています。

夏の大会に寄せて（2）

～ 「壮行会」での校長挨拶にかえて ～

いよいよ夏の大会。皆さんは、これまでの地道な練習・辛い練習に耐え、技術と集中力、チームワーク、そして自分自身の心を磨いてきました。

技術の向上に加え、仲間と過ごし、自分と向き合う中で、自分自身を鍛え、仲間との信頼関係を築いてきたことに、大きな価値があると私は思います。

ひたすら活動に没頭してきたそのことに誇りを持ち、大会に臨んでください。見ている者が思わず感動するプレーを期待します。（おうちの方の参観が望めない種目もあります。ご容赦ください。）

さて、今年も新型コロナの影響で制約が生じ、皆さんにとって大変厳しいものになってしまいました。申し訳なく思います。

そんな中、三年生にとって節目の機会としてほしいという願いから、市町村、事業所のご理解、関係の皆さんのご支援のもと、部活動の顧問の先生方が中心となり、幾度も会議を重ね、準備し、大会開催を迎えることができます。

選手の皆さんには、顧問の先生方をはじめ、支援して下さる皆さんの熱い思いを受けとめ、大会に参加する全ての選手の皆さんの気持ちを一つにして、思い出に残るすばらしい大会を、自分たちの手で創ってほしいと願っています。

プレーする自分を信じ、仲間を信じ、勝っておごらず、負けて腐らず、正々堂々とはつらつとしたプレーをし、最後の最後まで力を出してください。

皆さんの健闘を祈ります。

「花作相見」

環境委員会の皆さんがハウスの中で丹念に育ててきた花の苗。いよいよポットに移植する段階となりました。

5月24日、各学級でポットに移植し、雨に当たらないようにと校舎の壁沿いにならべる作業。ポットは、水持ちがしないので、これからさらに、手間をかけてお世話をする必要があります。毎朝、委員の皆さん、学級の皆さんが足しげく通って見守り育てています。



理科室西側の壁に沿ってプラ箱を並べます。雨に当たらないようにという配慮から壁沿いに設置します。水道が遠いので、水やりは手間がかかります。



メイン花壇は、3年生の分担となっています。マスクをしながら黙々と草を取り、準備をすすめています。

自然体験学習

5月25・26日、1学年「自然体験学習」が行われました。天候にも恵まれ、自然と文化を味わう2日間を創ることができました。

1日目は高遠青少年自然の家での野外炊飯、散策、体験工房。2日目は高遠町内のオリエンテーション。

高遠町図書館の先生方も、高遠中学校1年生の姿を見守って下さいました。素朴で熱心な姿であったとの声をいただいています。



5月24日、前日最終打ち合わせ。急遽、泊を伴わない学習に変更となりましたが、生徒が中心となって活動をすすめています。



5月25日、午前。野外炊飯。小学校で体験したこともあるのでしょうか。スムーズにできたようです。それでも小さなトラブルを乗り越えての炊飯は格別なものと思います。



高遠町内めぐり。チェックポイントでの課題となっていたのでしょうか。ポーズを決めるメンバー。みんなで一つを創るという体験ともいえます。

高遠青少年自然の家は、昨年30周年を迎えました。さらに研修指導員として、地元高遠から大勢の方が携わっています。高遠中学生を温かく見守り育ててくださっています。感謝です。

2学年登山について

山小屋の宿泊制限の影響で泊まることができないため、目的地も含めて検討することとなりました。ご心配をおかけします。改めてご連絡差し上げます。

生徒会 図書委員会 「イラストコンテスト」



(池の蓮華)

撮影：H. T

「高遠応援隊」



応援隊の皆さんから顔写真とメッセージをいただいて、本校舎1階に掲示させていただきました。45名の方のお名前があります。ここにお名前のない方で中学生に指導や支援をいただいている方もおいでです。感謝です。

新型コロナ下のため、昨年度に引き続き、高遠中学校応援隊発足の会を見送ることといたしました。

本来であれば、全校生徒と応援隊（ボランティア）の方とが一堂に会しての発足会です。万が一を考慮させていただきました。少人数であれば活動が可能ですので、できる限りの感染拡大防止策を講じて、地域の方のお知恵をいただき、学びにつなげていきたいと考えています。

生徒の皆さんには、顔と名前がつながるような活動を期待しています。そして、皆さんが大人になったら、高遠中学校の“応援隊”になってください。お願いします。

6月1日「写生会」

晴天の下、写生会を行いました。学年によっては、事前に高遠高校生とオンラインで指導や助言をいただいて絵づくりにチャレンジしました。暑い日差しとなったので、体力を消耗したみなさんもいたのではないのでしょうか。

